

◆ 学位	学位名	博士（教育学）京都女子大学		修士（教育学）京都女子大学
	取得方法	課程 平成 18 年取得		課程 平成 12 年取得
◆ 学歴	大学	京都府立大学文学部社会福祉学科 平成 10 年卒業		
	大学院	京都女子大学文学研究科博士前期課程 平成 12 年修了 京都女子大学文学研究科博士後期課程 平成 15 年単位取得退学		
◆ 学内職務 (平成 30 年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 宗教委員</li> <li>▪ </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ </li> <li>▪ </li> </ul>	
◆ 担当授業科目 (平成 30 年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 認知心理学</li> <li>▪ 犯罪捜査の心理学</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 心理学実験法</li> <li>▪ 心理学基礎実験 I・II</li> </ul>	
◆ 職務上の実績に関する事項（資格、免許、特許、等）				
▪				
◆ 専門研究分野			◆ キーワード	
認知心理学		<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 子どもの記憶・語り</li> <li>▪ フォールスメモリ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 司法面接</li> <li>▪ リアリティモニタリング</li> </ul>	
◆ 研究概要	①子どもから事実を聞き取るインタビュー方法（司法面接）について ②リアリティモニタリングエラーとしてのフォールスメモリ生成のプロセスについて			
◆ 所属学会	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 日本心理学会</li> <li>▪ 日本発達心理学会</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 法と心理学会</li> <li>▪ 日本子ども虐待防止学会</li> </ul>	
◆ 主要著書（5 件程度）				
書名・タイトル	単/共	発行年月日	発行所、発表雑誌等、発表学会の名称	
▪				
◆ 主要論文（5 件程度）				
書名・タイトル	単/共	発行年月日	発行所、発表雑誌等、発表学会の名称	
<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 虐待被害を疑った時の子どもからの聴き取り 養護教諭志望学生を対象とした意識調査から</li> </ul>	単	平成 30 年	『四天王寺大学紀要』	
<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 多専門・多職種連携による司法面接の展開 - 通達からの 1 年を振り返り、今後の展開を考える</li> </ul>	共	平成 29 年	『法と心理』	
<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 家庭裁判所における子どもの心情・意向調査への司法面接の活用</li> </ul>	単	平成 28 年	『四天王寺大学紀要』	
◆ その他（5 件程度）				
書名・タイトル	単/共	発行年月日	発行所、発表雑誌等、発表学会の名称	
<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 「多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と提供」</li> </ul>	共	平成 27～30 年度	JST/RISTEX「安全な暮らしをつくる新しい公/私空間の構築」研究開発領域 研究開発プロジェクト（研究代表者：仲真紀子）内 グループリーダー	

<ul style="list-style-type: none"> <li>企画ワークショップ「司法における多専門・多職種連携と心理学：外国人被告人の心理査定」企画・司会</li> </ul>	共	平成 29 年	法と心理学会
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの面接研究の学校における活用に向けて 自主企画シンポジウム「学校からの虐待通告 迅速な通告と有機的な多機関連携に向けて」話題提供</li> </ul>	単	平成 29 年	日本教育心理学会
<ul style="list-style-type: none"> <li>Interviewing children-from a viewpoint of NICHD investigative interview protocol “How to overcome the language barriers -When a vulnerable people in terms of communication encounter an incident or an accident.” テーマセッション話題提供</li> </ul>	単	平成 28 年	ICP 2016